

幼児教育施設における外国籍等の子供の在籍及び 教育・保育に関するアンケート調査まとめ（案）

1 調査期間

- 令和6年7月24日（水）から8月9日（金）まで
（ 調査時点 令和6年7月24日 ）

2 調査目的

- 愛知県内の幼児教育施設における外国籍等の子供※の受け入れ状況を把握するとともに、課題や情報を整理し、外国籍等の子供やその子供を取り巻くすべての子供たちが育ち合える教育・保育を進めていくための資料を作成する。

※ 外国籍等の子供…国籍に関わらず、父・母のいずれか、又は、両方が外国にルーツを持っている子供

3 調査方法・対象・回答者数

- 「愛知県電子申請・届出システム」を活用したインターネットアンケート
○ 愛知県内の幼児教育施設、外国籍等の子供を担当したことがある保育者

幼児教育施設	国公立幼稚園	私立幼稚園	公立保育所及び 保育所型認定こども園	民間保育所及び 保育所型認定こども園
	46	168	412	248
	公立幼保連携型 認定こども園	私立幼保連携型 認定こども園	合計	
	17	96	987	
保育者	現在担任している		過去に担任したことがある	
	586		590	
			合計	
			1176	

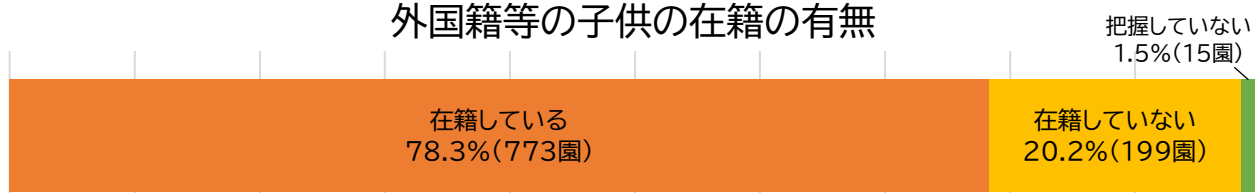
4 主な調査項目

- 幼児教育施設
外国籍等の子供の在籍状況/関係機関との連携/小学校への接続/
外国籍等の子供の困り感/外国籍等の子供の保護者の困り感/外国籍等の子供と
学級の子供たちとの関わり
- 保 育 者
保育者の感じる気になる姿（子供・保護者）/配慮や工夫をしたこと/
共に生活する周囲の子供たちへの保育者の関わり/
遊びや生活の中でみられる具体的な外国籍等の子供の姿

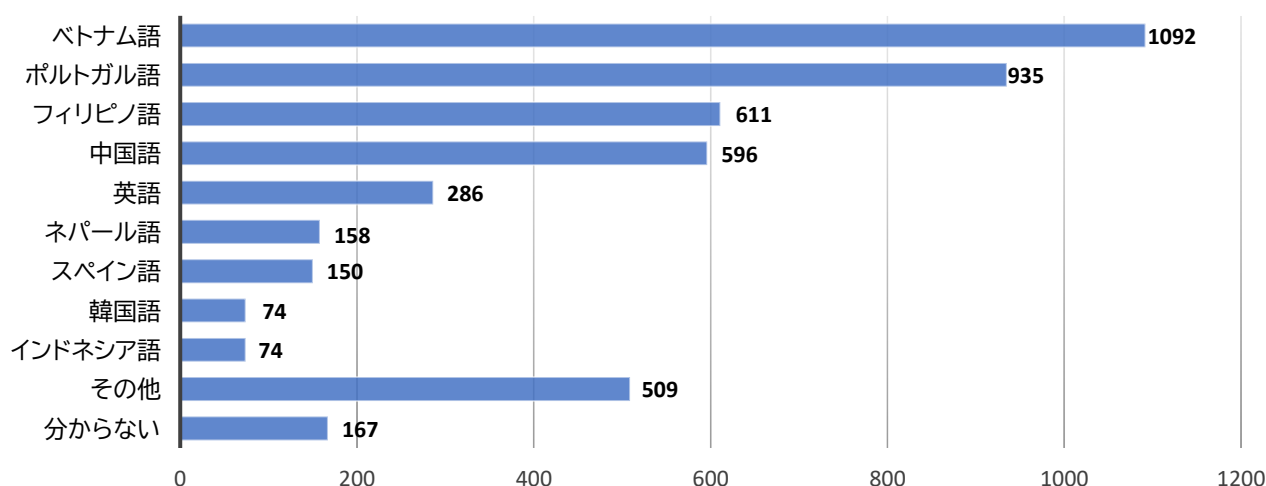
幼児教育施設アンケート

1 外国籍等の子供の受け入れ状況について

外国籍等の子供の在籍の有無



外国籍等の子供の母語別人数



	ベトナム語	ポルトガル語	フィリピン語	中国語	英語	ネパール語	スペイン語	韓国語	インドネシア語	その他	わからない
母語別人数	1092	935	611	596	286	158	150	74	74	509	167

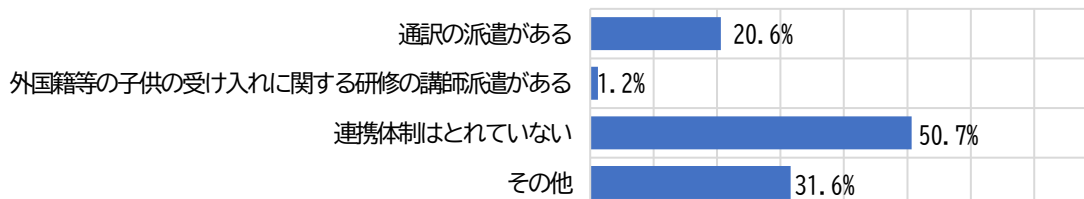
その他（ウルドゥ語、トルコ語、タガログ語、タイ語、シンハラ語、スリランカ語など）

外国籍等の子供の在籍人数(年齢別)と在籍する割合

	園児数	外国籍等の子供の在籍人数	外国籍等の子供が在籍する割合
3歳未満児	23,258	1,140	4.9%
3歳児	26,161	1,075	4.1%
4歳児	27,668	1,224	4.4%
5歳児	26,323	1,213	4.6%
合 計	103,410	4,652	4.5%

2 関係機関との連携について（複数回答可）

関係機関との連携

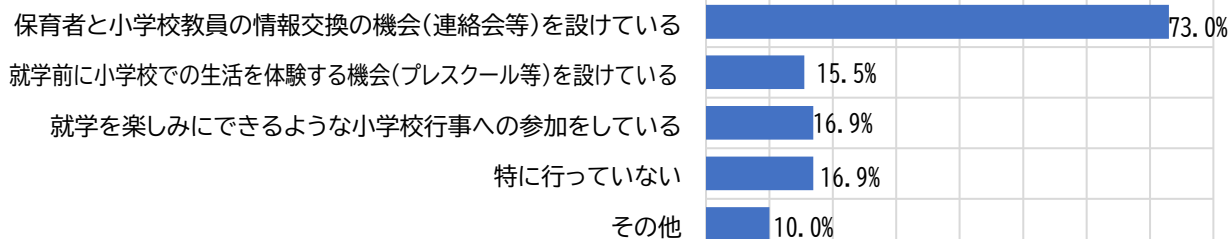


その他

- ・テレビ通訳システムを利用している。
- ・園だよりや手紙の翻訳は自治体に依頼できる。
- ・翻訳機の貸与がある。
- ・保護者が日本語を理解できるため、連携の必要がない。
- ・連携を取るべき機関が分からない。
- ・必要に応じて、保健師や社会福祉協議会の支援員に相談している。
- ・入園時の書類説明や懇談会などを市区町村役場で実施し、自治体の通訳者を活用している。

3 小学校への接続について（複数回答可）

小学校への接続



その他

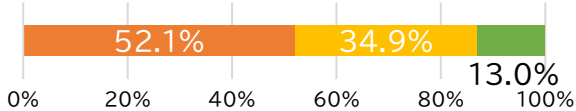
- ・市町村教育委員会と連絡をとり、学校で保護者が懇談できる機会を設け、就学の不安を取り除いている。
- ・日本語があまり話せない子には、年長になると日本語を教えに小学校のサポートの方が来てくれる。
- ・市町村教育委員会が検査を実施し、就学時の日本語理解がどの程度か把握している。
- ・連携を取りたいと思っているが、どのように学校と関係をつくればよいのかが分からない。

保育者アンケート

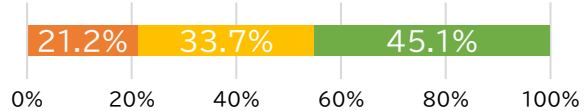
1－（１） 外国籍等の子供について、保育者が感じる気になる姿

■ よく見られた ■ 見られた ■ あまり見られない

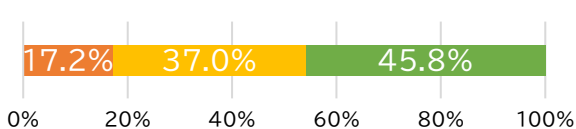
①保育者からの指示が伝わらない



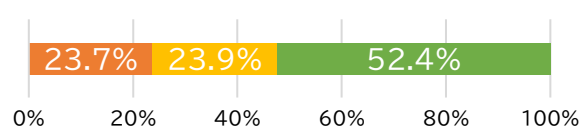
②周りの子や保育者に声をかけようとしらない



③一人でいることが多い



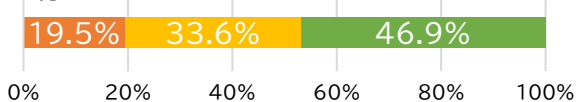
④文化の違いに戸惑っている様子がある



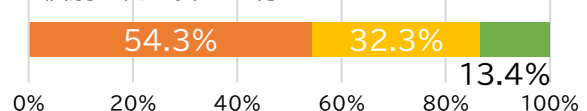
1－（２） 外国籍等の子供について指導上、配慮や工夫をしたこと

■ よく配慮した ■ 配慮した ■ あまり配慮していない

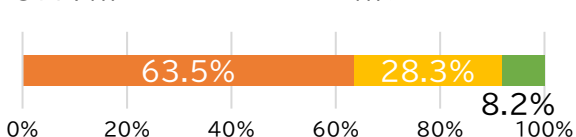
⑤「おはよう」などの挨拶や簡単な言葉掛けを母語で行った



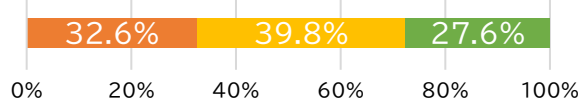
⑥近くに座る、手をつなぐ等、個別の働き掛けを行った



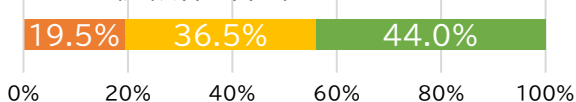
⑦日本語をゆっくり、はっきり話すようにした



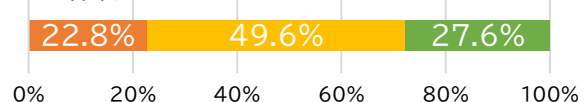
⑧話したり表示したりするときに、イラストなどでの表示を多くした



⑨サポートする大人が、近くにいたようにした（通訳者を含む）



⑩学級担任だけでなく、園全体で当該幼児に配慮する体制にした



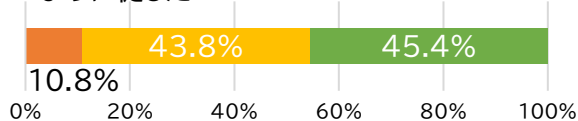
考察

- ・ 子供自身が、周りの子や保育者へ声をかけようとしなかったり、一人でいる姿が多く見られたりすることから、言語の違いにより進んでコミュニケーションを取ることをためらっていることが考えられる。【②③】
- ・ 気持ちが安らぎ、より安心感や親近感がもてるよう、子供の母語を大切にして、子供を理解したいと働きかけていくことも、積極的に取り入れるとよい。【⑤】
- ・ 言語を介さないスキンシップを通して個別配慮をする関わりは半数以上の保育者が行っている。多くの保育者が愛着関係を築く関わりから行っていると考えられる。【⑥】
- ・ ゆっくり、はっきり話すことや、イラストや写真、動画などの視覚補助を使ったりすることは、幼児教育の実践で既に意識的に行われていることの応用編である。外国籍等の子供だけでなく、全ての子供たちにとっても分かりやすく有効であるため、活用していきたい。【⑦⑧】

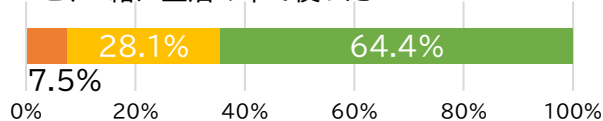
2－（１） 共に生活する周囲の子供たちへの保育者の関わり

■ よく配慮した ■ 配慮した ■ あまり配慮していない

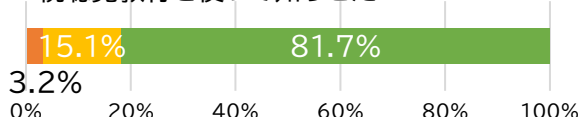
①周囲の友達から外国籍等の子供に声を掛けるように促した



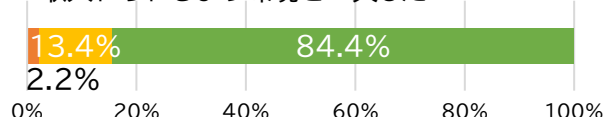
②当該幼児の国の言葉(挨拶や簡単な単語等)を知らせ、一緒に生活の中で使った



③当該幼児の国の文化や生活について視聴覚教材を使って知らせた



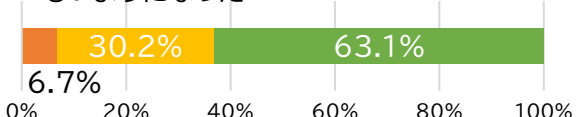
④当該幼児の国の文化や生活に関する遊びや教材を取入れられるよう環境を工夫した



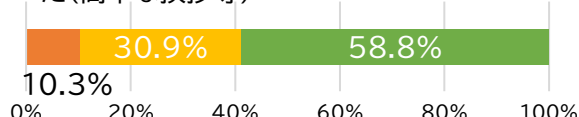
2－（２） 共に生活する中で、周囲の子供たちに見られた変容

■ よく見られた ■ 見られた ■ あまり見られない

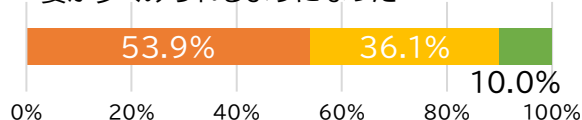
⑤外国籍等の子供の文化的背景に興味をもつようになった



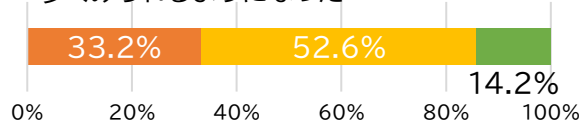
⑥外国籍等の子供の言葉に興味をもつようになった(簡単な挨拶等)



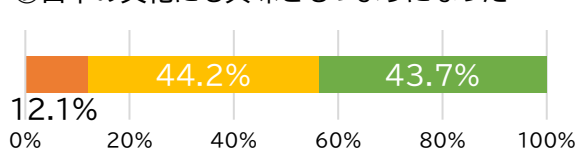
⑦言葉が分からなくても、遊びの中で自然にかかわる姿が多くみられるようになった



⑧困っている様子を見ると、助けようとする姿が多くみられるようになった



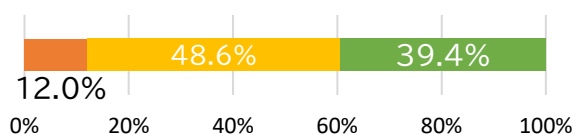
⑨日本の文化にも興味をもつようになった



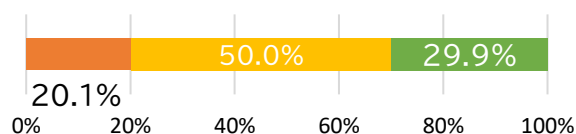
★ 2－（１）②・③・④の取組を一つでも行っている保育者の回答のみの集計結果

■ よく見られた ■ 見られた ■ あまり見られない

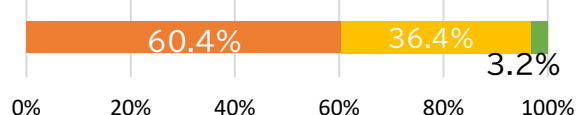
⑩外国籍等の子供の文化的背景に興味をもつようになった



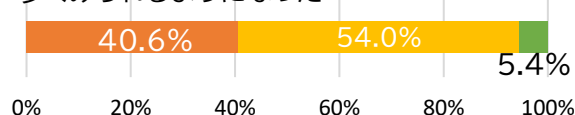
⑪外国籍等の子供の言葉に興味をもつようになった(簡単な挨拶等)



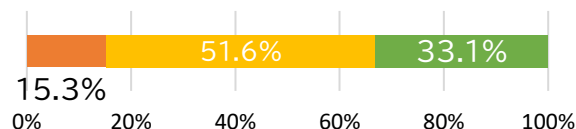
⑫言葉が分からなくても、遊びの中で自然にかかわる姿が多くみられるようになった



⑬困っている様子を見ると、助けようとする姿が多くみられるようになった



⑭日本の文化にも興味をもつようになった



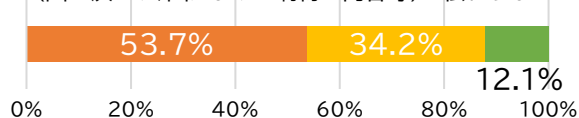
考察

- ・ 外国籍等の子供への支援に比べ、共に生活する周囲の子供たちへ働きかけを行っている幼児教育施設は少ない。【②③④】
- ・ ②③④に挙げた取組を行っている保育者の回答のみを集計をした場合、「よく見られた」「見られた」と回答した保育者は⑤⑥⑦⑧⑨のいずれの割合も増加している。保育者の外国籍等の子供への意識や働きかけが、周囲の子供の姿に大きく影響を与えていると考えられる。【⑩⑪⑫⑬⑭】
- ・ 外国籍等の子供の文化等について、互いの違いに気付いたり、周囲の子供たちが興味・関心をもったりしたタイミングを逃さず捉えることが大切である。多様な文化に対する興味・関心は、多様性を知る機会と考え、保育者はアンテナを高くし働きかけていく必要がある。

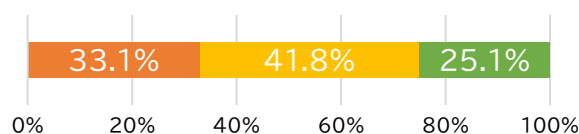
3—（１） 外国籍等の子供の保護者に対して、保育者が感じる気になる姿

■ よく見られた ■ 見られた ■ あまり見られない

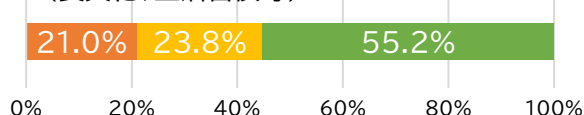
①園の生活について、園から伝えたいこと（園の決まり、園だよりの刷物の内容等）が伝わらない



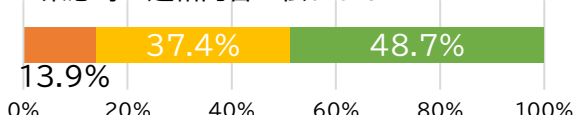
②幼児の育ちや生活の様子を伝えられない



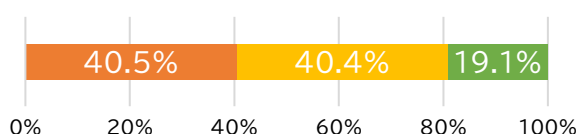
③文化の違いに戸惑っている様子がある（食文化、生活習慣等）



④病気や怪我など緊急時の連絡内容が伝わらない



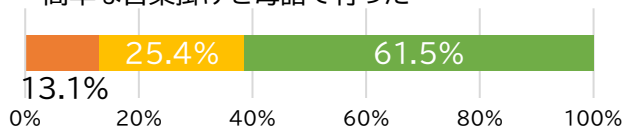
⑤日本人保護者との交流が少ない



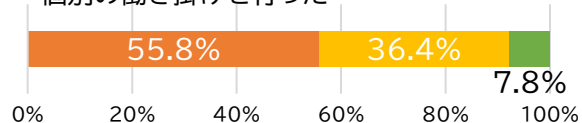
3—(2) 外国籍等の子供の保護者と関わる上で、配慮や工夫をしたこと

■ よく配慮した ■ 配慮した ■ あまり配慮していない

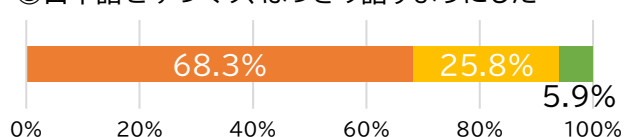
⑥「おはよう」などの挨拶や
簡単な言葉掛けを母語で行った



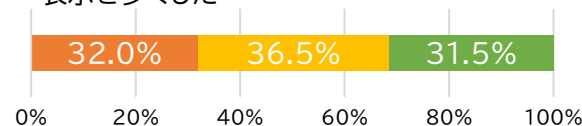
⑦子供の様子や連絡等、
個別の働き掛けを行った



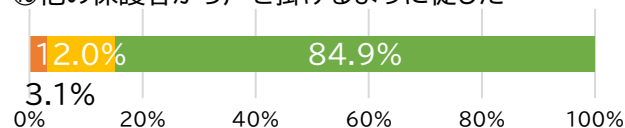
⑧日本語をゆっくり、はっきり話すようにした



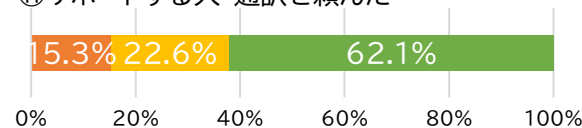
⑨伝達事項について、イラストなどでの
表示を多くした



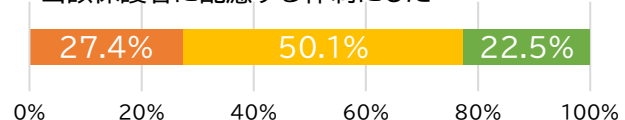
⑩他の保護者から声を掛けるように促した



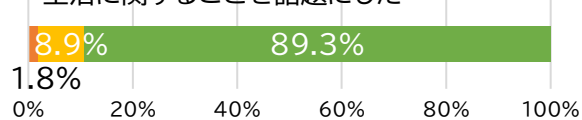
⑪サポートする人・通訳を頼んだ



⑫学級担任だけでなく、園全体で
当該保護者に配慮する体制にした



⑬保護者会等で当該保護者の国の文化や
生活に関することを話題にした



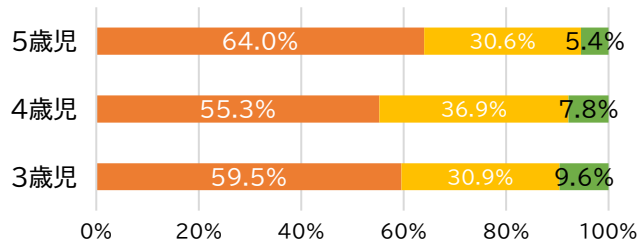
考察

- ・ 保育者が保護者に伝えたいことを十分に伝えることができず、苦慮していることが分かる。
保護者自身が文化の違いに戸惑いながら子供を通園させていることや、日本人保護者との交流が少ないことから、園からの保護者支援も必要な状況であると考える。園として外国籍等の子供の保護者支援をしていく際に大切にしたいことは、保護者の思いに寄り添うことである。文化の違いから理解が難しいこともあるという前提で、何を、どのような方法で伝えるとよい、考えていくとよい。【①②④⑤】
- ・ 保護者が安心して園生活や子育てを進めていくためにも、周りの日本人保護者と関わるきっかけ作りや、仲立ち等の援助を取り入れていけるとよい。
- ・ 保護者に連絡の内容を理解してもらうために、園では個別に働きかけたり、視覚的にわかりやすいイラスト等を利用したりしながら、様々な方法で保護者支援が行われている。
【⑦⑧⑨⑫】
- ・ 通訳派遣等は、現状いつでも手軽に利用できるものではないが、通訳サポートや通訳システムの利用、ICT 機器の活用等、どのような支援を受けることが可能かについて、各園は情報を集めたり整理したりし、必要な時に利用していけるとよい。【⑪】

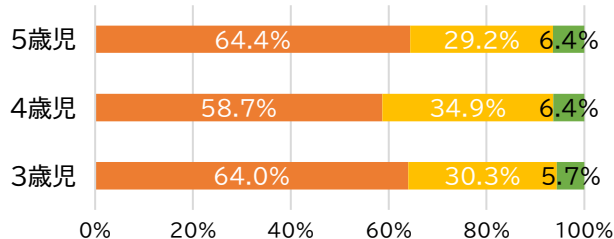
4 遊びや生活の中で見られる具体的な外国籍等の子供の姿

■ よく見られた ■ 見られた ■ あまり見られない

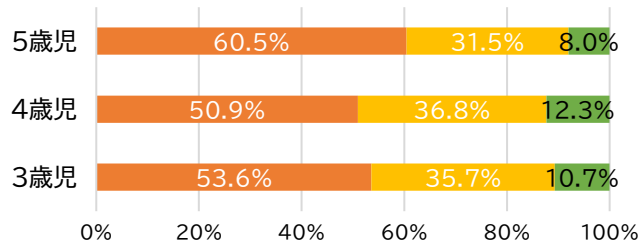
① 感触遊び(水や泥に触れる遊び、粘土遊び等)に興味をもち、進んで行おうとする



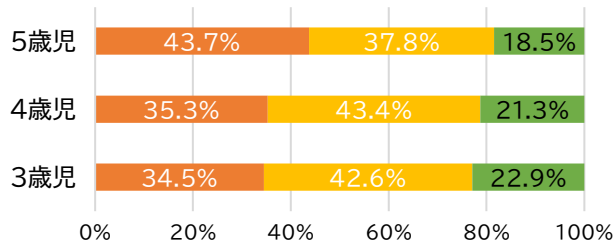
② 体を動かす遊び(固定遊具、かけっこ、踊り等)に興味をもち、進んで行おうとする



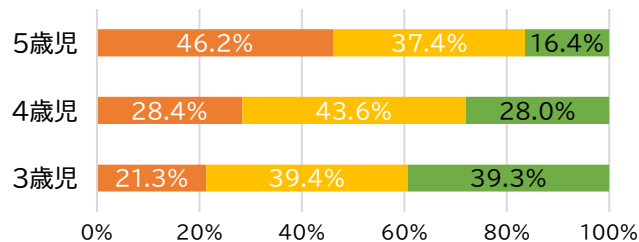
③ 描いたり作ったりする遊び(製作遊び等)に興味をもち、進んで行おうとする



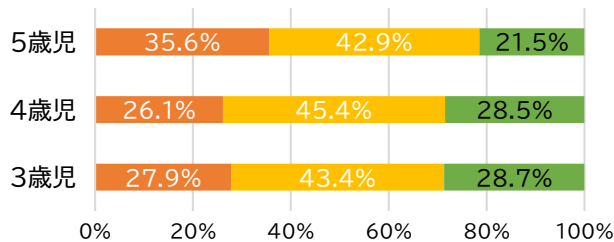
④ イメージする遊び(ごっこ遊び等)に興味をもち、進んで行おうとする



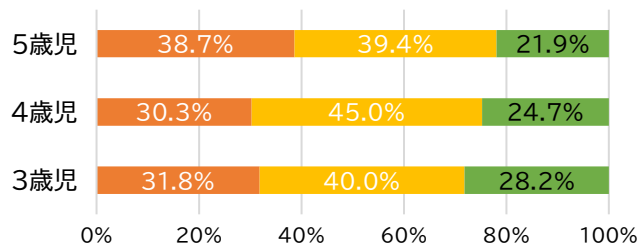
⑤ ルールのある遊び(鬼ごっこ、ドッジボール等)に興味をもち、進んで行おうとする



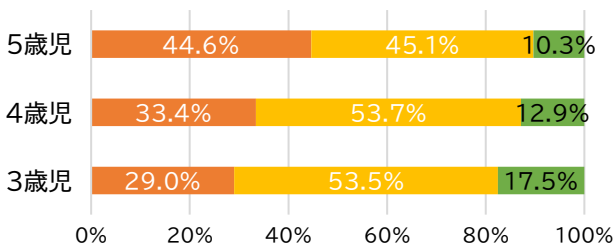
⑥ 絵本に興味をもち、進んで見ようとする



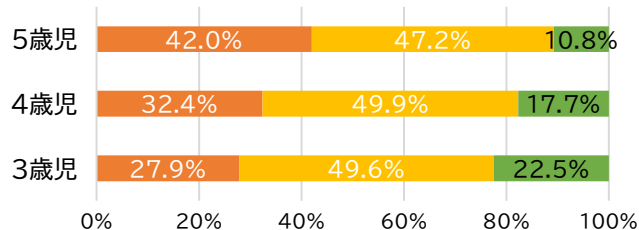
⑦ 歌を歌うことに興味をもち、進んで歌おうとする



⑧ 園全体の行事(年中行事や季節の行事)に進んで参加する



⑨ クラスでの一斉活動(製作や遊び)に進んで参加する



考察

- ・ ①～③で取り上げている遊び（感触遊び・身体を動かす遊び・描いたり作ったりする遊び）は、言葉を使わなくても、感覚的に楽しめたり、自分の思ったこと、考えたことを自由に表現したりするものであるため、入園当初にも、興味をもち進んで行おうとする姿が見られている。④～⑦で取り上げている遊び（イメージする遊び・ルールのある遊び・絵本・歌）は、言葉や母国の文化・習慣が少なからず影響し、その遊びに対して消極的になってしまう子供がいることが考えられる。
- ・ 特に絵本や歌については、5歳児で興味を示さない姿が3・4歳児と大きく変わらない。大まかな年齢の発達を考えると、ストーリーの理解、言葉の節回しの面白さ、言葉遊び（韻を踏む）等を楽しむ姿が見られる5歳児であっても、言葉の理解がない中では面白みを感じにくいのではないかと考えられる。絵本や歌の、どのようなことに対して面白さを感じているのかについて、よく捉えていく必要がある。また、絵本や歌は、遊びを通して子供同士がつながる教材にもなるが、子供の姿に合った内容を選ぶ配慮が必要である。【⑥⑦】